

みんなで作ろう！セーフコミュニティちちぶ

水道局

災害時の安全対策委員会  
活動報告

発表者：委員長 長谷川辰巳  
所 属：秩父市町会長協議会

# 対策委員会の構成

区分	団体・組織名	委員数	団体・組織名	委員数
住民組織 (9)	秩父市町会長協議会	2	秩父市民生委員・児童委員協議会	1
	秩父市赤十字奉仕団	1	秩父郡市障害者団体連絡協議会	1
	秩父地区PTA連合会 秩父支部	1	秩父市消防団	1
	社会福祉協議会	1	秩父郡市医師会	1
行政機関 (10)	秩父警察署・小鹿野警察署	2	秩父地域振興センター	1
	秩父保健所	1	秩父消防本部	2
	秩父市 (社会福祉課、障がい者福祉課、道路維持課、危機管理課)			4

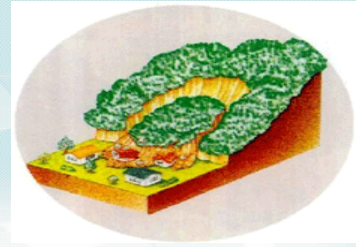


# 対策委員会の経過

回数	開催日	対策委員会 会議
第16回 ～ 第26回	2016年5月～ 2019年6月	取組み①～⑤を協議 「取組みの充実・周知・新規」、「課題の整理と対策」、「成果と評価指標」、「アンケート結果」、「連携強化と効果的な取組み」、「効果的な引継ぎ」「転倒予防リーフレット」について
第29回 ～ 第33回	2019年8月 7日 ～ 2020年3月18日	★再認証事前審査報告内容の確認について 事前審査の振り返り及び現地指導に向けての見直し コロナ禍での取組みについて

開催日	イベント等
2016年10月19日	★SC認証1周年記念イベント (箕輪町SC関係者による講演会と取組み報告)
2017年 9月10日	横浜市栄区SC事前指導視察
2017年11月25日	★市民安全・安心フォーラム2017inちちぶ(SC認証2周年記念イベント) 市民啓発映画祭、記念鼎談、有識者によるSC分科会
2018年5月 2019年5月	★SC講演会(新委員向け研修含む)
2018年11月14日	アジア地域SC会議厚木大会 「分科会報告」
2019年 2月 1日	★SC事業報告会

# 背景1 土砂災害危険地域



本市は、山間部に位置し、土砂災害の危険が高い  
→県内の指定危険地域の約20%が秩父市内

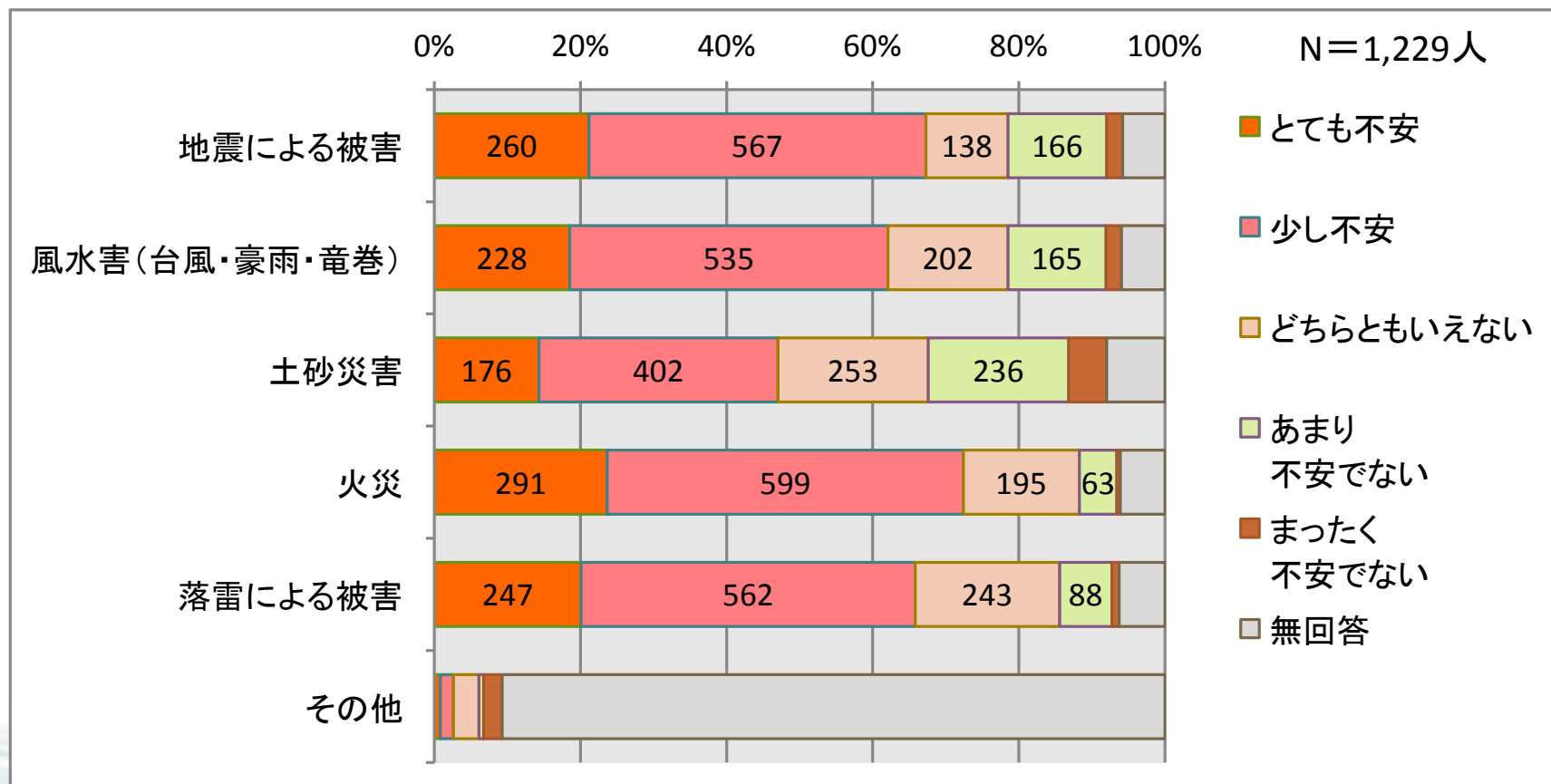
表1	秩父市の 指定箇所数	埼玉県の 指定箇所数	全県に占 める割合
○地すべり危険箇所	23	110	20.9%
○土石流危険溪流	197	1,202	16.4%
○急傾斜地崩壊危険箇所	619	2,907	21.3%
合計	839	4,219	19.9%



# 背景2 災害に対する不安

土砂災害危険箇所が多いにもかかわらず、  
市民の危機意識は低い

図1



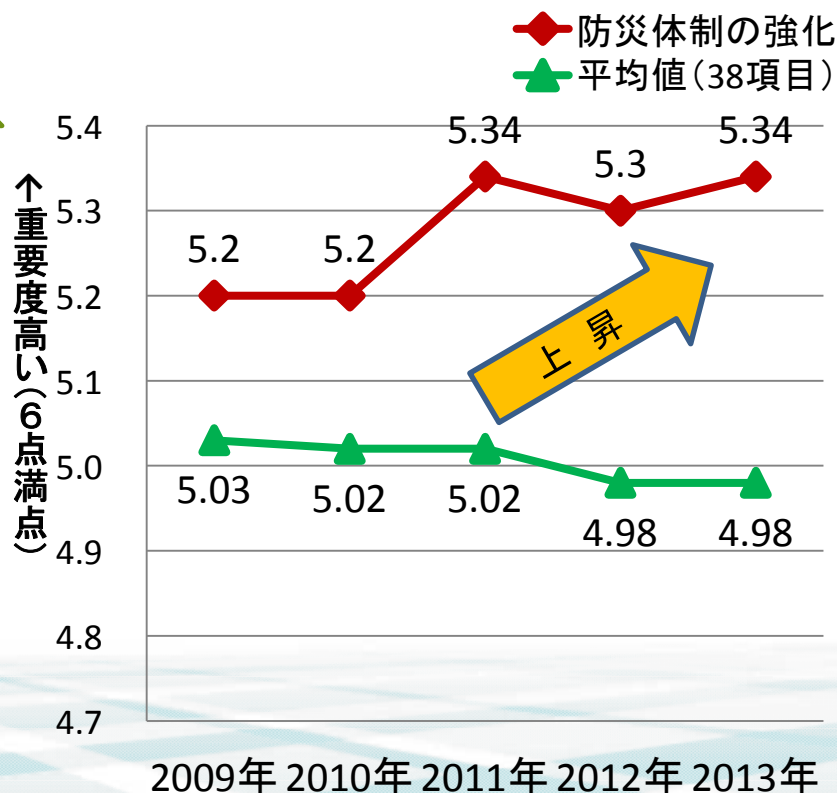
出典: 秩父市安心・安全なまちづくりアンケート(2013年)

# 背景3-1 防災体制の強化が重要

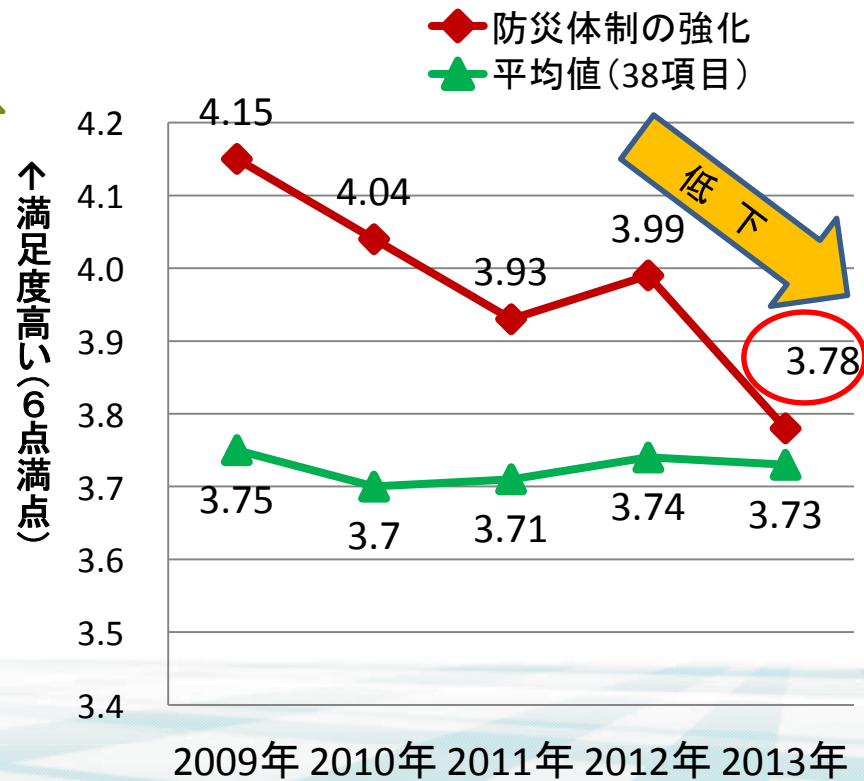
図2

市民は、防災体制の強化を考えている  
市の防災施策に対する満足度は低下傾向

市民が考える重要施策 (6点満点)



施策に対する市民の満足度 (6点満点)



出典: 秩父市市民満足度調査



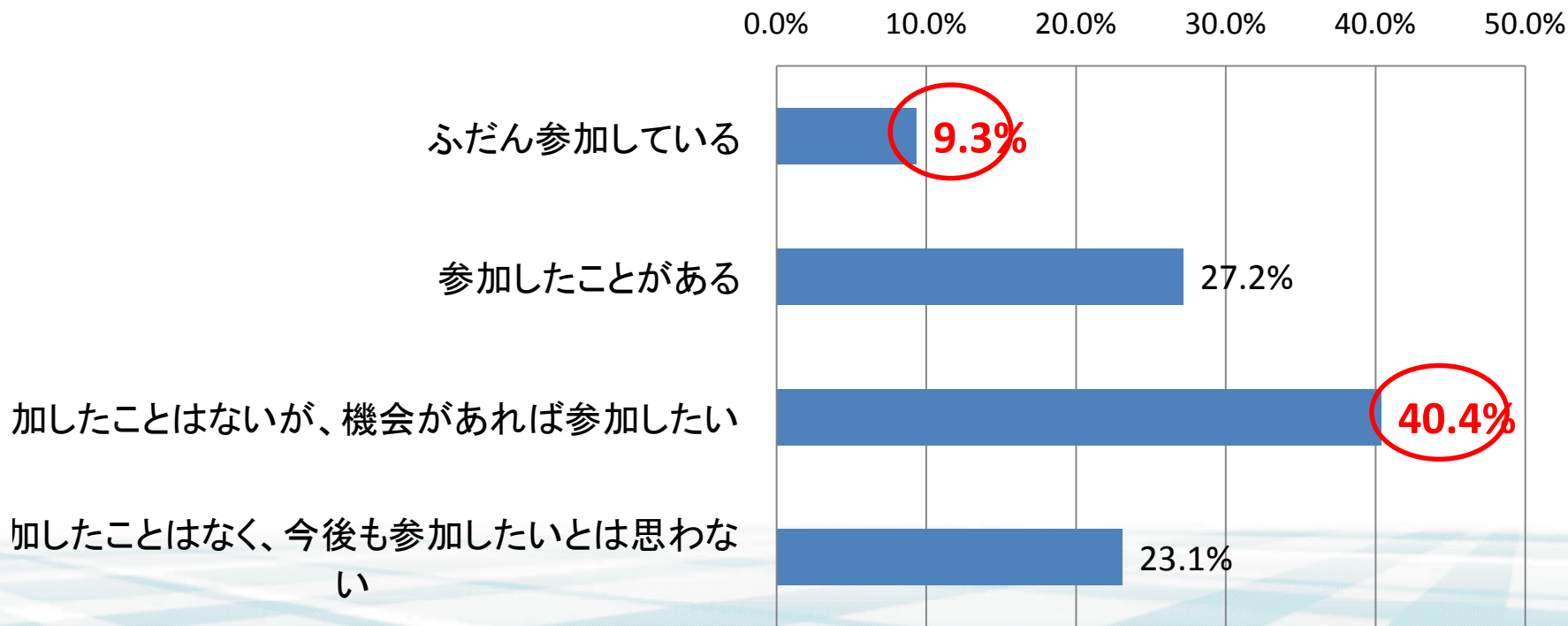
# 背景3-2 防災活動の参加者数が少ない

地域の防災活動にふだんから参加しているのは10%弱

→しかし、「参加したことはないが、機会があれば参加したい」と思うのは約40%

図3

地域における防災活動への参加状況  
(n=1,082人)



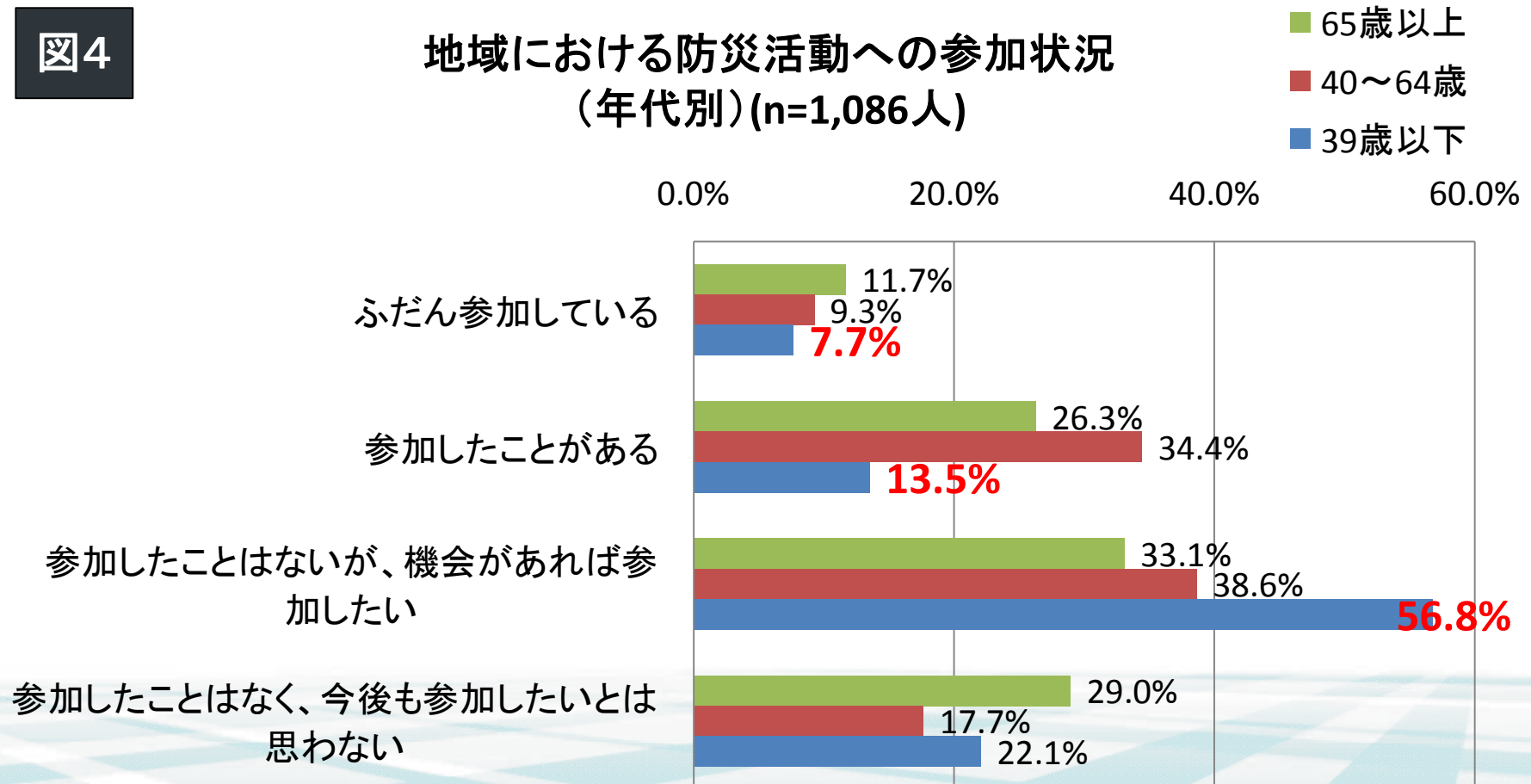
# 背景3-3 若い世代ほど参加意欲が高い

地域防災活動への参加は、

- ・すべての年代で「ふだん参加している」人の割合は少ない。
- ・若い世代ほど、「機会があれば参加したい」と考えている。

図4

地域における防災活動への参加状況  
(年代別)(n=1,086人)





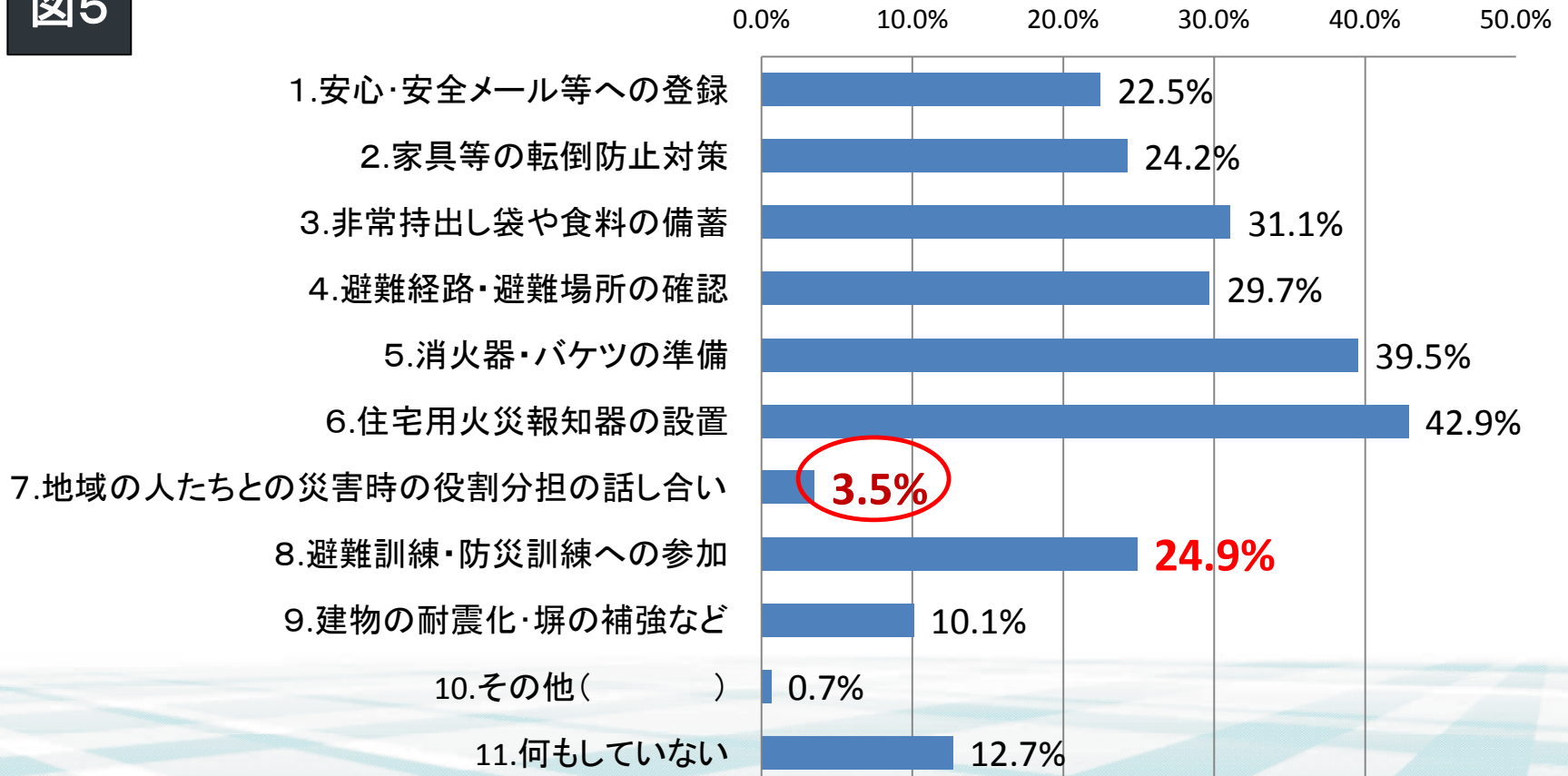
# 背景3-4 災害時の役割分担が話し合われていない

## 災害時の対応は、自助7割、共助2割、公助1割

→実際は、「地域における役割分担の話し合い」がほとんど行われていない(3.5%)。

図5

「災害に対する備え」の取組み状況 (n=1,229人)



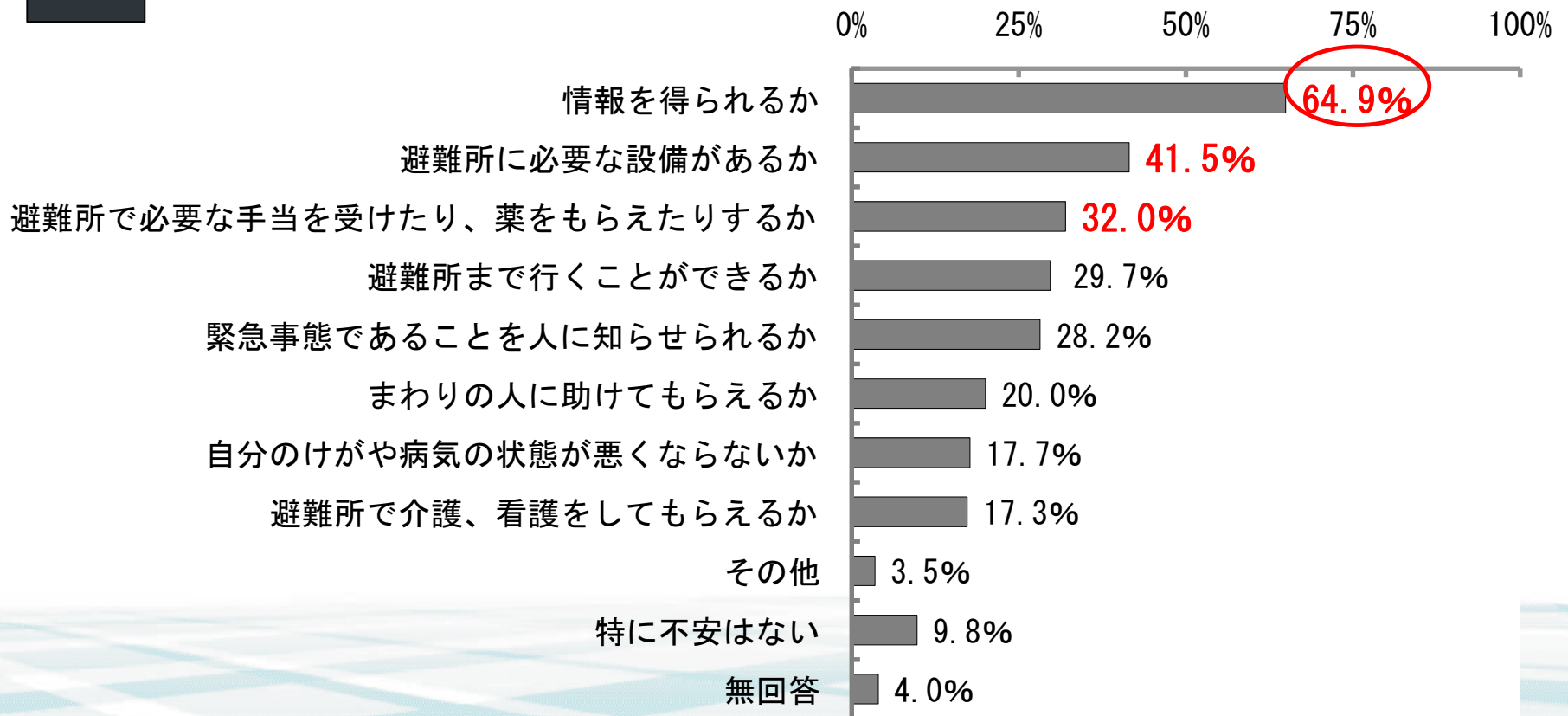
# 背景3-5 災害時の「情報」に対する不安が大きい

災害時の不安は「情報を得られるか」が最も多く(64.9%)  
→「設備」や「薬」など、情報が少ないことに対する不安が上位

## 「災害時の避難や対応で不安に思うこと」

(n=1,158人、複数回答可)

図6



出典:秩父市社会福祉に関する意識調査(2011年)

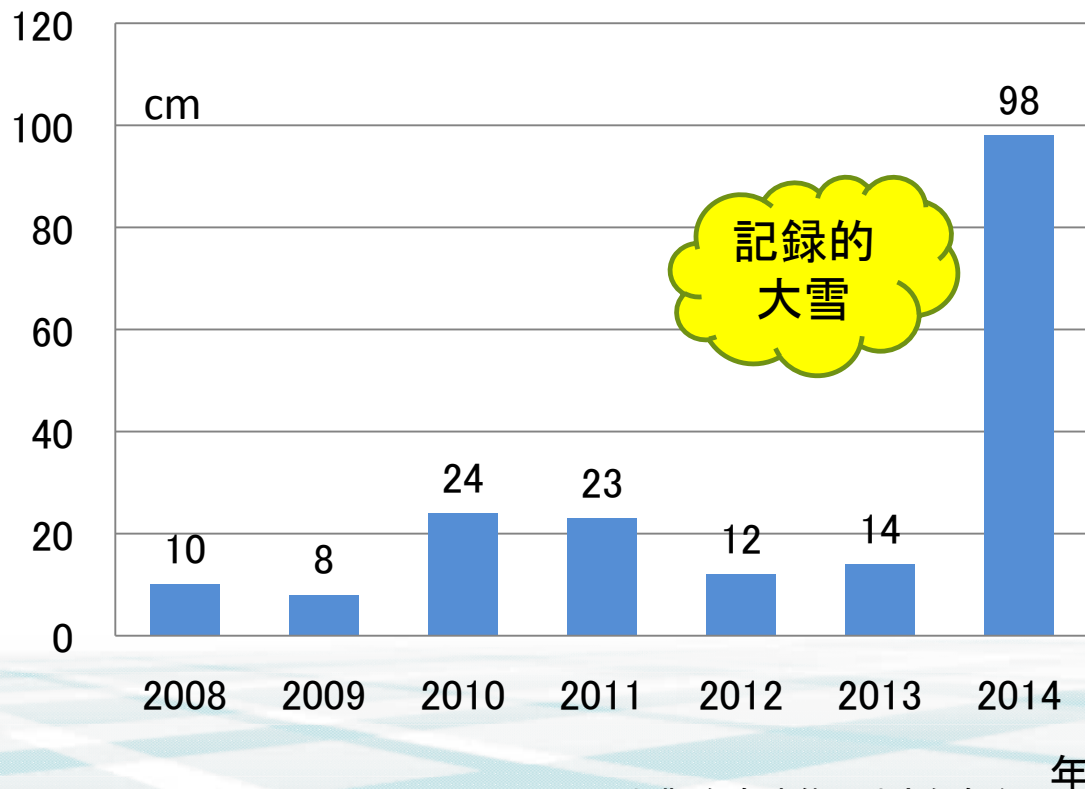


# 背景4 大雪災害で集落が孤立

2014年2月14～15日に観測史上最高の積雪98cmを記録  
→山間部を中心に多くの集落が孤立し、路上で車が立ち往生

図7

最大積雪量



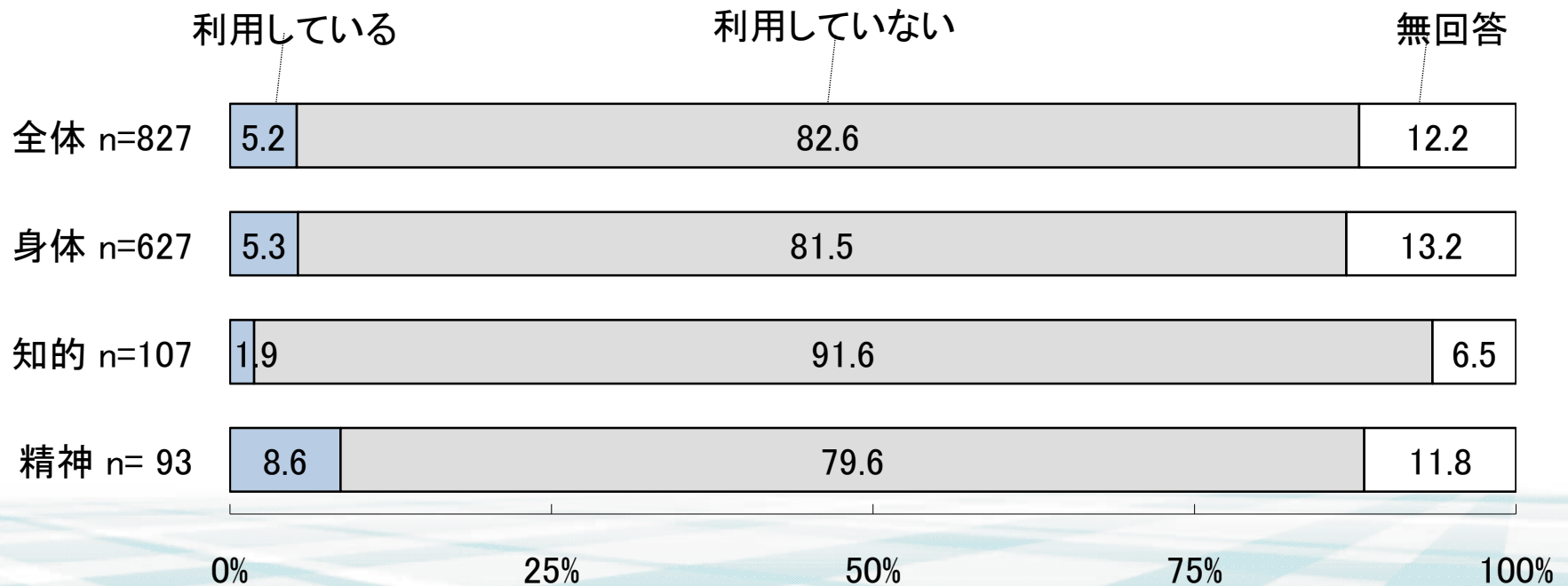
出典：気象庁熊谷地方気象台

# 背景5 要援護者の把握ができていない

- ・要援護者支援制度への登録者は約400人
- ・障がい者の約8割は、制度を利用していない  
→「制度があることを知らなかった」が最も多く(56%)

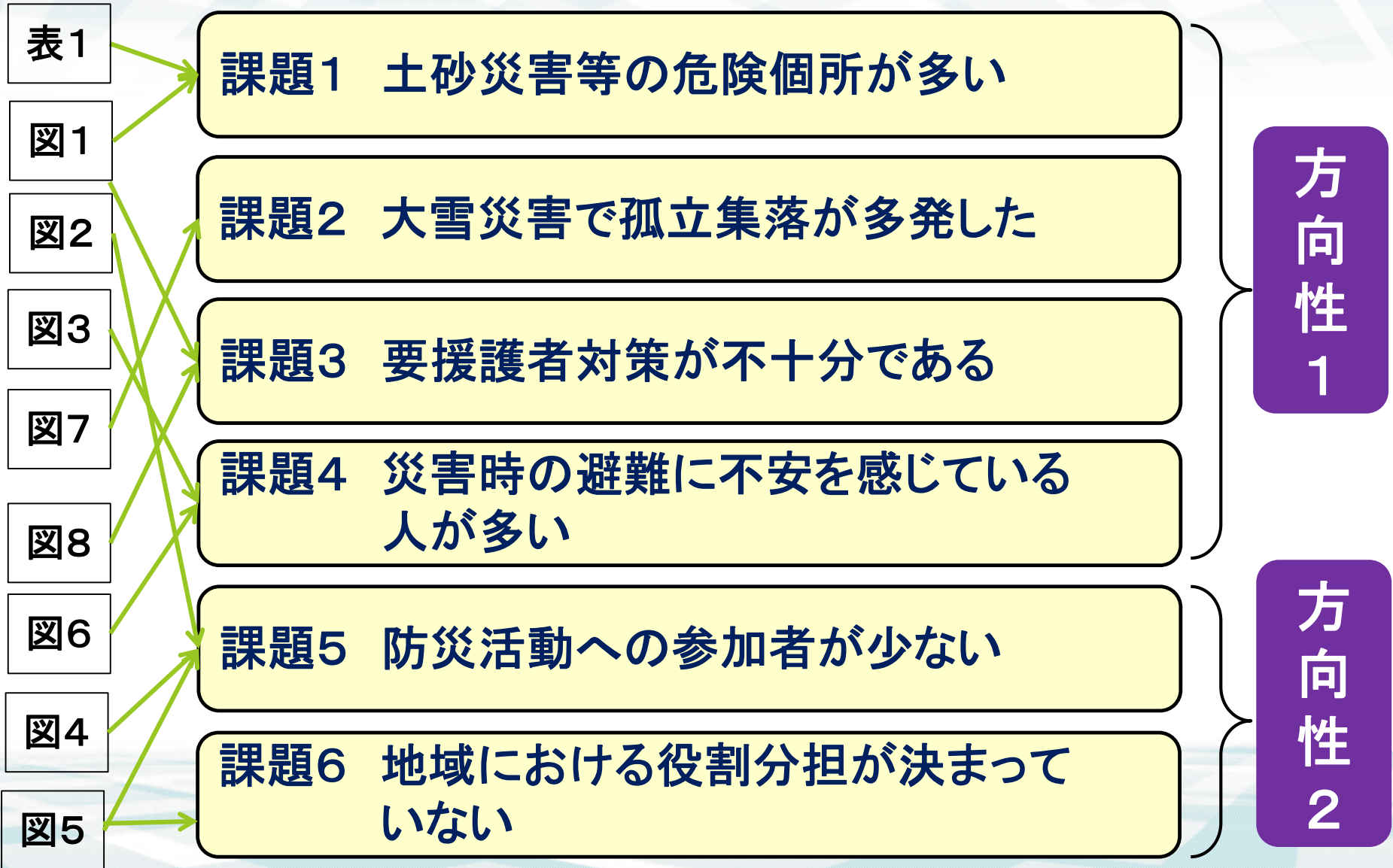
図8

障がい者の要援護者支援制度の利用状況(n=827人)





# 課題の整理



# 課題・方向性・重点対象・取組の整理



## 取組①

災害情報の共有・発信

## 取組②

要支援者の把握強化

## 取組③

地域ボランティア除雪隊の育成

## 取組④

自主防災リーダーの育成

## 取組⑤

自主防災訓練の充実

# 課題1・2・3・4に対するレベル別の対策

課題	対 策			
	方向性	国・県レベル	市レベル	地域レベル
課題 1 2 3 4	教育啓発	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害対策基本法</li> <li>・土砂災害防止法</li> <li>・土砂災害警戒区域の指定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハザードマップ作成</li> <li>・避難行動要支援者名簿の作成</li> <li>・戸別受信機の配布</li> <li>・安心・安全メール配信事業</li> <li>・小型除雪機の貸与</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土砂災害警戒区域の指定状況の把握</li> <li>・避難経路図の作成</li> <li>・避難行動要支援者の把握</li> <li>・地区防災計画の策定</li> </ul>
	規制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害対策基本法</li> </ul>	<div style="border: 2px solid orange; padding: 10px; text-align: center;"> <p><b>【対策委員会の関わり】</b></p> <p><b>【取組①】災害情報の共有・発信</b></p> <p><b>【取組②】要支援者の把握強化</b></p> <p><b>【取組③】地域ボランティア除雪隊の育成</b></p> </div>	
	環境整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害対策基本法</li> <li>・災害時の自衛隊派遣</li> <li>・土砂対策工事</li> </ul>		



# 課題1・2・3・4に対する国県の対策例

## 土砂災害への対策工事





# 課題1・2・3・4に対する市の対策例①

## ハザードマップの作成

市内全戸へ配布(約25,500冊)し、市内の土砂災害警戒区域について周知

**秩父市ハザードマップ**

CHICHIBU CITY DISASTER-PREPAREDNESS MAP

災害に備えて... P1  
 家の安全対策・耐震... P2  
 非常時持出品... P4

土砂災害について... P5  
 P6

風水害対策... P7  
 地震対策... P8

大雪・急激な暴風... P9  
 避難所一覧... P11  
 保存版

秩父市 危機管理課

令和元年 9月

ゆれやすさマップ... P37  
 P38

安全な場所へ避難してください。日ごろから危険箇所、避難場所、避難経路を確認しておくことも重要です。

**土砂災害の前ぶれ(前兆現象)として、どんなことが起こるの?**

かけ崩れは突然起きるため、人家の近くで起きると逃げられる人も多く、被害者の割合も高くなっています。

げけ崩れ  
 げけ崩れは、けけから水が湧き出ている、げけに崩れ目が見える、げけから小石がバラバラと落ちてくる。

土砂災害  
 土砂災害は、川の流水がにこり、流水が溢れはじめる、河は濁り続いていて川の水位が上がる、山崩れがする。

地すべり  
 沢や井戸の水がにごる、斜面が崩れる、斜面から水が湧き出す。

**土砂災害の予防策**

30度以上あるがけは、大雨により崩れる危険性が高い箇所です。また、がけや崖土の崩落を防ぐためのよう壁、うね壁や保年数の経過によっては崩れる危険性があります。日ごろからチェックしておきましょう。

雨が集中して流れるところがある  
 わき水が出ている  
 勾配が30度以上、高さ5m以上  
 不安定な岩や土のかたまりがある

斜面に亀裂がある

がけの上に水がたまっている  
 水溜まりが少なく、またはたまっている  
 よう壁が劣化している  
 擁壁部分が十分に土中に埋まっている

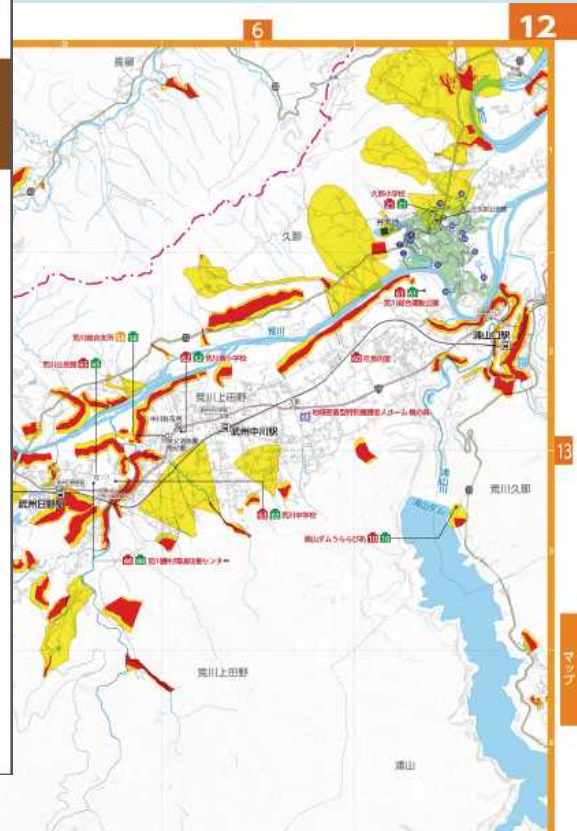
雨水がたまり、ぬかるみができる

雨水の量に備え、崩れやすい石がたまっている

1.0m~2.0m 未満の区域  
 0.5m~1.0m 未満の区域  
 0.5m 未満の区域

18A 重要度の別添削欄(緑色: 特)  
 18B 重要度の別添削欄(黄色: 注)  
 18C 重要度の別添削欄(赤色: 危)

© 2019 ZENIN CO., LTD.



# 課題1・2・3・4に対する市の対策例②

## 町会へ小型除雪機の貸与

- 希望のあった75町会へ小型除雪機を貸与し、除雪体制の整備を促進した。
- 安全に操作できるよう、毎年講習会を開催している。





# 課題5・6に対するレベル別の対策

課題	対 策			
	方向性	国・県レベル	市レベル	地域レベル
課題 5 6	教育 啓発	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ イツモ防災ハンドブック</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自主防災組織リーダー養成講座</li> <li>・ 安心・安全メール配信事業</li> <li>・ 災害情報収集フェイスブック開設</li> <li>・ 除雪路線図の公開</li> <li>・ ハザードマップ作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 防災訓練の開催</li> <li>・ 地区防災計画の策定</li> </ul>
	規制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 災害対策基本法</li> </ul>	<p><b>【対策委員会の関わり】</b>  <b>【取組④】自主防災リーダーの育成</b>  <b>【取組⑤】自主防災訓練の充実</b></p>	
	環境 整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 災害時の自衛隊派遣</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 避難場所看板設置</li> <li>・ ボランティアセンター開設訓練の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ いっとき集合場所の指定</li> </ul>

# 課題⑤⑥に対する市の対策例

## 自主防災リーダー養成講座の開催

毎年、養成講座を市内の会場で開催し、リーダーを養成



# ① 災害情報の共有・発信

<p>課 題</p>	<p>課題1 土砂災害等の危険個所が多い          課題2 大雪災害で孤立集落が多発した          課題3 要援護者対策が不十分である          課題4 災害時の避難に不安を感じている人が多い</p>	
<p>方向性</p>	<p>防災体制の整備、充実</p>	
<p>内容等</p>	<p>【内容】</p>	<p>情報の共有・発信の体制をつくる</p>
	<p>【対象】</p>	<p>関係機関、市民</p>
	<p>【対策委員会の役割】</p>	<p>取組みの支援          ①メールの登録件数が少ない尾田蒔地区に、登録推進のチラシを配布した。          ②市報、対策委員の所属団体を通して、災害情報等の受信体制の確保を呼び掛け</p>
<p>(短・中期評価)          意識・知識や態度・行動の変化</p>	<p>【指標】          災害情報の共有数</p>	<p>【測定】          関係団体連絡会議の開催回数、町会向けメールの登録件数</p>
<p>(長期評価)          状態・状況の変化</p>	<p>【指標】          災害時の市民満足度の向上、災害時の受傷者の減少</p>	<p>【測定】          市民満足度調査、災害時の受傷者数</p>



# 取組① 災害情報の共有・発信

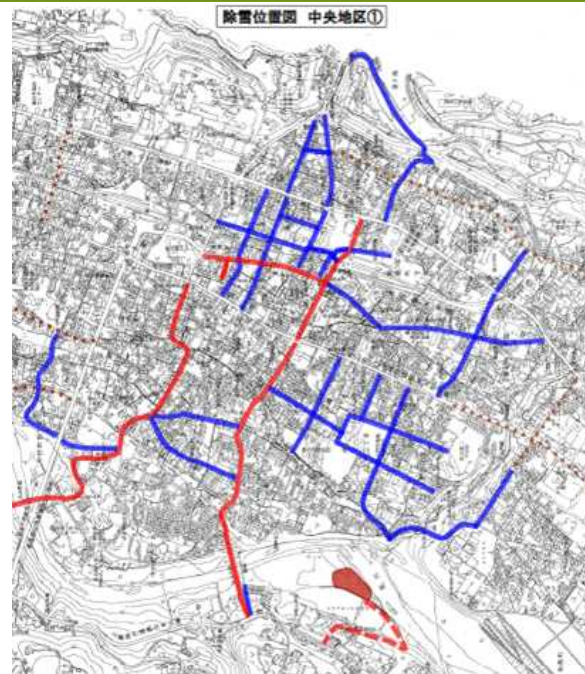
## 取組内容

- 関係機関連絡会議の開催
- 除雪優先路線の公開
- 町会向け安心安全メールの推進
- ハザードマップの作成・配布  
(2019年9月全戸へ配布)

## 実績

- 関係機関の連絡会議の開催:2回(降雨期前、降雪期前)
- 国県市道の除雪優先路線を全て公開
- ハザードマップの配布(2019年9月全戸へ配布)
- 尾田蒔地区へメール登録促進のチラシ配布

## 除雪優先路線の公開



# 短・中期評価(意識・行動の変化)

## ■ 関係団体連絡会議の開催回数

継続的な情報共有

区分	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
回数	2回	2回	2回	2回	1回

風水害・雪害対策秩父地域会議開催回数

2014年から連絡会議を開催し、関係機関と会議を継続して行っている。  
2020年は新型コロナの影響により、開催が1回となった。

## ■ 町会向けメールの登録件数

登録者数の維持

区分	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
件数	303件	277件	290件	293件	309件

安心・安全メール(町会向け)登録件数(年度末時点)

毎年、町会役員へ登録について周知している。役員が変わっても登録件数は維持できている。今後は全町会が登録するよう周知していく。

# 長期評価(状況の変化)

## 市民満足度調査

重要性と満足度の維持

市民が考える重要施策

(6点満点)

年	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2019	2020
防災体制の強化	5.2	5.34	5.3	5.34	5.37	—	5.46	5.38	—
全体平均値	5.02	5.02	4.98	4.98	5.03	—	5.12	5.24	—

施策に対する市民の満足度

(6点満点)

年	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2019	2020
防災体制の強化	4.04	3.93	3.99	3.78	3.88	—	3.97	3.84	—
全体平均値	3.7	3.71	3.74	3.73	3.67	—	3.54	3.51	—

出典: 秩父市市民満足度調査

## 災害時の受傷者数

災害時に受傷者は、確認できず(2016年の大雪、2019年台風19号)



# 長期評価(状況の変化)

災害時の不安の減少

「災害時の避難や対応で不安に思うこと」

年	2011(取組前)	2017(認証後)
情報を得られるか	64.9%	21.2%
避難所に必要な設備があるか	41.5%	47.3%
避難所で必要な手当を受けたり、薬をもらえたりするか	32.0%	46.3%
避難所まで行くことができるか	29.7%	42.5%

n=1,158人                      n=581人

出典:障がい福祉に関するアンケート(2011年、2017年)

## ②要援護者の把握強化

<p>課 題</p>	<p>課題1 土砂災害等の危険個所が多い          課題2 大雪災害で孤立集落が多発した          課題3 要援護者対策が不十分である          課題4 災害時の避難に不安を感じている人が多い</p>	
<p>方向性</p>	<p>防災体制の整備、充実</p>	
<p>内容等</p>	<p>【内容】</p>	<p>災害時に支援が必要な人を把握し、支援計画を作成する</p>
	<p>【対象】</p>	<p>要援護者</p>
	<p>【対策委員会の役割】</p>	<p>取組みの支援          ①制度の改善(避難行動要支援者の対象者を広げるとともに窓口での制度紹介を依頼)          ②避難行動要支援者の支援計画の作成について町会に依頼</p>
<p>(短・中期評価) 意識・知識や態度・行動の変化</p>	<p>【指標】 避難行動要支援者制度の認知度・同意者数</p>	<p>【測定】 避難行動要支援者制度の認知度・同意者数の増加</p>
<p>(長期評価) 状態・状況の変化</p>	<p>【指標】 災害時の受傷者の減少 支援計画作成町会</p>	<p>【測定】 災害時の受傷者数 支援計画作成町会数</p>

# 取組② 要援護者の把握強化

## SC取組前

- 要援護者の把握が出来ておらず、災害時の支援が遅れた
- 要援護者支援制度を知らない方が多い(特に障がい者)

## SC取組後

- 避難行動要支援者名簿を関係機関で共有
- 避難行動要支援者制度の周知を強化

## 今後の取組み

- 情報提供に同意していただく人数を増やす
- 支援者の支援計画を作成する町会を増やす

## 実績

- 避難行動要支援者制度の推進： 名簿登録者2,400人  
情報提供同意者702人
- 支援計画作成町会：5町会(2020年度)





# 短・中・長期評価(意識・行動の変化)

認知度及び情報提供同意者の増加

## ■避難行動要支援者制度の認知度

区分	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
人数	1,591人	1,591人	1,976人	2021人	2400人
認知度	100%	100%	100%	100%	100%

※各年6月現在

## ■関係機関への情報提供同意者

区分	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
人数	0人	649人	677人	684人	702人

※各年6月現在

制度改正により、対象者すべてに周知することができた。今後は関係機関への情報提供に同意していただける人数を増やすことが必要。

# 長期評価(状況の変化)

## ■ 支援計画作成町会

支援計画の作成開始

区分	2015年	2020年
計画作成町会数	0町会	5町会
町会名		巴川町会 中久那町会 上久那町会 上白久町会 下白久町会

関係機関へ情報提供された情報を基に、町会で支援計画ができるよう対策委員会でも支援を行っていく。

## ■ 災害時の受傷者数

災害時に受傷者は、確認できず(2016年の大雪、2019年台風19号)

# ③地域ボランティア除雪隊の開始

<p>課 題</p>	<p>課題1 土砂災害等の危険個所が多い          課題2 大雪災害で孤立集落が多発した          課題3 要援護者対策が不十分である          課題4 災害時の避難に不安を感じている人が多い</p>	
<p>方向性</p>	<p>防災体制の整備、充実</p>	
<p>内容等</p>	<p>【内容】</p>	<p>大雪災害時に、町会で地域の除雪を実施する。除雪を行う地域ボランティアの協力を呼びかける</p>
	<p>【対象】</p>	<p>市民</p>
	<p>【対策委員会の役割】</p>	<p>取組みの支援          ①町会が除雪しやすい体制となるよう市に提言          ②一般のボランティアの登録者拡大の研究と関係機関へのお願い</p>
<p>(短・中期評価) 意識・知識や態度・行動の変化</p>	<p>【指標】 防災活動に関する意識と行動の変化</p>	<p>【測定】 地域ボランティア除雪隊制度の認知度(結成町会数) ボランティア登録者の増加</p>
<p>(長期評価) 状態・状況の変化</p>	<p>【指標】 孤立世帯の早期解消 災害時の受傷者の減少</p>	<p>【測定】 孤立期間の短縮 災害時の受傷者数</p>



# 取組③ 地域ボランティア除雪隊の開始

## SC取組後

- 除雪をした町会に補助金を交付する制度の創設
- 取組①の除雪路線図の公開により、除雪対象路線以外の除雪は町会が自主的に行うという役割分担が明確になった

## 実績

- 全80町会に「地域ボランティア除雪隊」設置完了
- 希望があった75町会へ小型除雪機を貸与

## 地域の除雪作業



## ボランティアによる除雪の様子



# 短・中・長期評価(意識・行動の変化)

全町会で結成

## ■地域ボランティア除雪隊制度の認知度

区分	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
結成町会数	80町会	80町会	80町会	80町会	80町会

- 孤立期間の短縮
- 災害時の受傷者数

災害時に受傷者は、確認できず(2016年の大雪、2019年台風19号)

# 取組④ 自主防災リーダーの育成

<p>課 題</p>	<p>課題5 防災活動への参加者が少ない 課題6 地域における役割分担が決まっていない</p>	
<p>方向性</p>	<p>地域としての意識の向上</p>	
<p>内容等</p>	<p>【内容】</p>	<p>自主防災リーダーを全町会で育成し、地域の防災意識の向上を目指す。</p>
	<p>【対象】</p>	<p>町会</p>
	<p>【対策委員会の役割】</p>	<p>取組みの支援 ①遠方で行われていた養成講座を市内で実施 ②委員の各団体や広報誌を活用し、参加の呼びかけ</p>
<p>(短・中期評価) 意識・知識や態度・行動の変化</p>	<p>【指標】 防災活動に関する意識と行動の変化</p>	<p>【測定】 自主防災リーダー養成講座受講者数</p>
<p>(長期評価) 状態・状況の変化</p>	<p>【指標】 災害時の受傷者の減少</p>	<p>【測定】 災害時の受傷者数</p>



# 取組④ 自主防災リーダーの育成

## SC取組後

- 自主防災リーダーを養成し、地域の防災意識の向上を図る
- 秩父市内で養成講座を開催することとなった
- 自主防災リーダーを養成する指導員が市内に2名登録

## 養成講座の様子



## 実績

- 自主防災リーダー養成講座を開催：13町会21人参加（2019年）
- 53町会に自主防災リーダーを養成

# 短・中・長期評価(意識・行動の変化)

参加者、町会の増加

## ■ 自主防災リーダー養成講座 受講者数及び町会数

区分	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
参加者数	31人	56人	43人	21人	—
参加町会	16町会	21町会	23町会	13町会	—

※今までリーダー養成講座に参加したことのない町会は27町会ある。

## ■ 災害時の受傷者数

災害時に受傷者は、確認できず(2016年の大雪、2019年台風19号)

# 取組⑤ 自主防災訓練の充実

<p>課 題</p>	<p>課題5 防災活動への参加者が少ない 課題6 地域における役割分担が決まっていない</p>	
<p>方向性</p>	<p>地域としての意識の向上</p>	
<p>内容等</p>	<p>【内容】</p>	<p>各町会で防災訓練を企画し、地域の実情に合わせた内容で実施する</p>
	<p>【対象】</p>	<p>町会</p>
	<p>【対策委員会の役割】</p>	<p>取組みの支援 ①学校へ児童生徒の訓練参加について協力要請 ②地域における「避難計画図の作成」、「地区防災計画の策定」を支援</p>
<p>(短・中期評価) 意識・知識や態度・行動の変化</p>	<p>【指標】 防災訓練の参加者の増加</p>	<p>【測定】 防災訓練参加者数 訓練内容の改善町会数</p>
<p>(長期評価) 状態・状況の変化</p>	<p>【指標】 災害時の受傷者の減少</p>	<p>【測定】 災害時の受傷者数</p>



# 取組⑤ 自主防災訓練の充実

## 実績

## 地域による避難路確認

### 防災訓練参加者数

2018年	7,922人
2019年	7,316人
2020年	8,456人



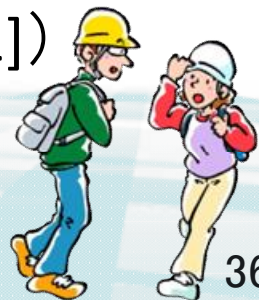
### ○自主防災訓練

: 全80町会で実施

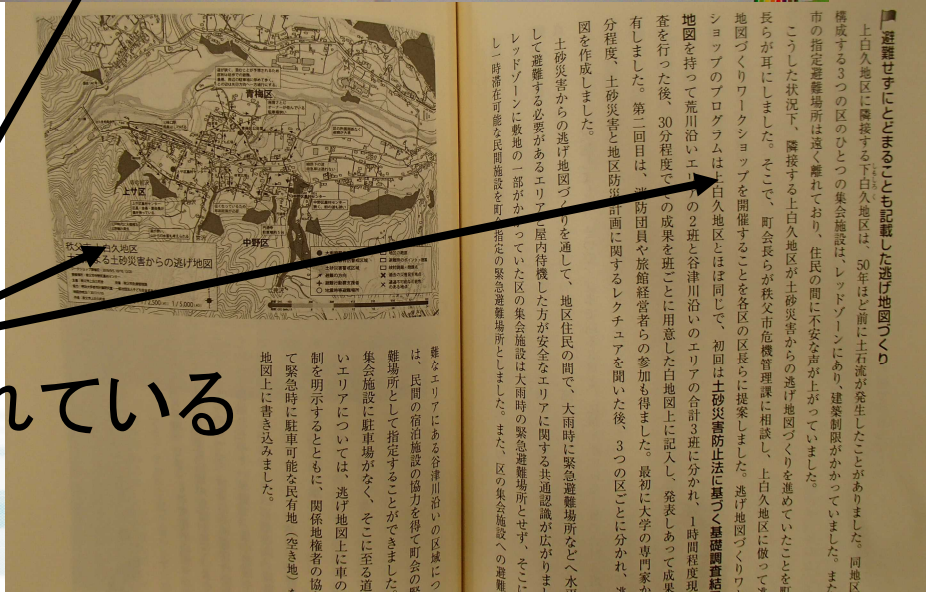
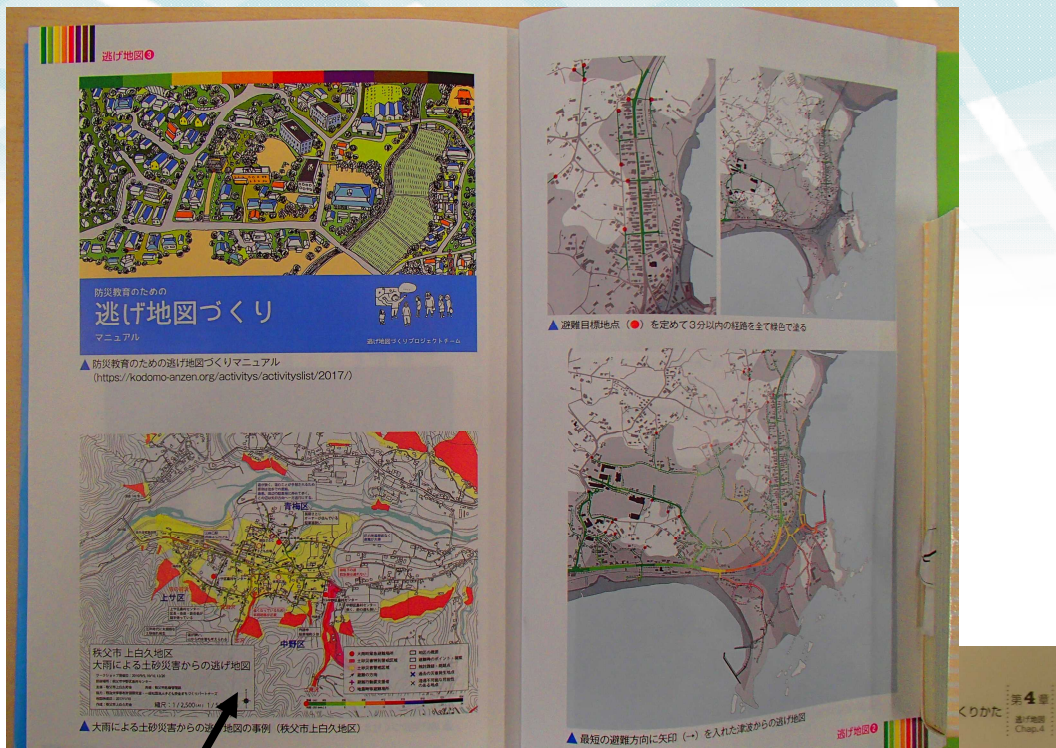
(2020年は新型コロナウイルス感染症の影響により、参加町会が減少)

○地区防災計画の作成: 5地区(久那地区[3]・白久地区[2])

○避難計画図の作成: 5地区(久那地区[3]・白久地区[2])







秩父市の取り組みが掲載されている

# 短・中・長期評価(意識・行動の変化)

## ■防災訓練参加者数

参加者、町会の増加

区分	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
参加者数	8,216人	8,137人	7,922人	7,316人	8,456人
参加町会	68町会	80町会	80町会	80町会	67町会

## ■訓練内容の改善町会数

改善町会の増加

区分	2017年	2020年
訓練内容改善町会数 (総数)	5町会	6町会

## ■災害時の受傷者数

災害時に受傷者は、確認できず(2016年の大雪、2019年台風19号) 38

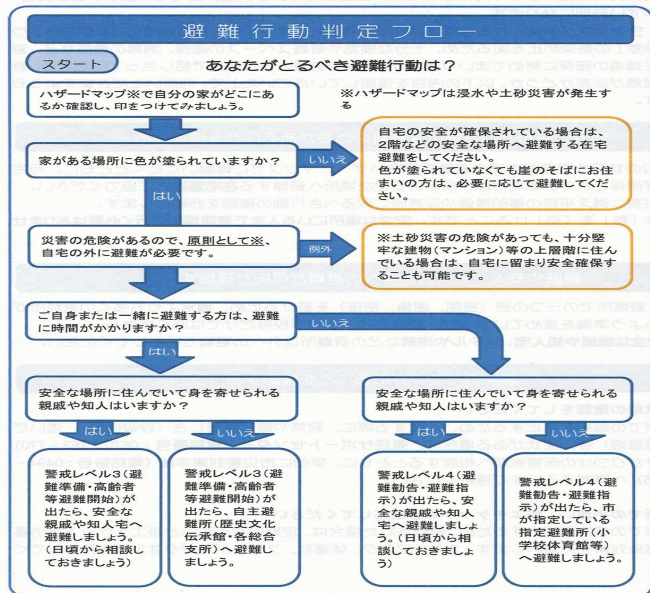


# コロナ禍での取組み

## ■避難所で3密を避ける取組み

●避難所での3密を避けるため、「台風に備えての避難行動判定フロー」のチラシを対策委員の事務所等に設置し、自宅の安全が確保されている場合の在宅避難や親戚・知人宅への縁故避難の検討を呼びかけた。

台風などに備えて、今のうちに、  
自宅が安全かどうかを  
確認しましょう！



### 避難所における新型コロナウイルス感染症対策へのお願い

毎年6月の梅雨時期から10月にかけては、台風などにより、低い土地での浸水や土砂災害が発生しやすい時期になります。

市では、今後発生が予想される台風等の自然災害時に、開設する避難所内での「新型コロナウイルス感染症」の感染防止を図るため、十分な換気や避難スペースの確保、消毒の徹底など、避難所の衛生環境の確保に努めてまいります。市民の皆様にもご家族で話し合っていたいただき、避難所への避難が必要かどうか、以下の内容を確認していただいた上で、判断いただけますようお願いいたします。

### 自分の住んでいる場所は避難の必要があるのかを確認する

自宅周辺の状況や避難所までの避難経路をハザードマップでご確認いただくとともに、自宅での安全が確保されている場合は、自宅の安全な場所へ避難する**在宅避難**にご協力ください。また、災害に備え平時の事前準備や災害時に取るべき行動の確認をお願いします。避難とは「難」を「避」けることです。**安全な場所にいる人まで避難場所に行く必要はありません。**

### 親戚や友人・知人の家等への避難が可能か確認する

市では、避難所での三つの密(密閉、密集、密接)を避けるため、通常よりも多くの避難所が開設できるよう準備を進めていますが、避難先は、小中学校等だけではありません。**近くで安全な親戚や知人宅、ホテルや旅館などの避難所以外への避難も検討してください。**

### 感染のリスクがあることを確認する

#### ○健康状態の確認をしてください

避難所での感染を防止するため、避難する際に、発熱や咳、息苦しさ(呼吸困難)、強いだるさ(倦怠感)等の症状がある場合は、県民サポートセンター(電話番号:0670-783-770)またはかかりつけの医療機関へ相談するとともに、事前に市災害対策本部(電話番号:0494-22-2206)へ避難する旨をご連絡ください。

#### ○避難所での手洗い、咳エチケット等を徹底してください

避難所での感染を防止するため、避難された場合は、定期的な手洗いと咳エチケット等の基本的な感染対策をお願いします。また、マスク、体温計、スリッパ及びタオル等を持参してください。

#### ○十分な換気の実施、スペースの確保等の協力をお願いします

避難所での感染を防止するため、他の避難者との距離を2m以上離すなど、十分なスペースの確保を行います。また、十分な換気を行いますので、曇り対策や防寒対策をお願いします。

# まとめ（成果と課題）

取組	成果	課題
災害情報の共有・発信	継続的に会議を開催し、共有体制を維持	全町会でメールの登録ができていない。
要支援者の把握強化	対象者全員に制度の周知	全員に周知は出来たが、情報提供の同意者が少ない。
地域ボランティア除雪隊の育成	全町会に「地域ボランティア除雪隊」を整備	降雪が少ないため、除雪隊の活動が評価できない。
地域防災リーダーの育成	53町会に自主防災リーダーを養成	全町会にリーダーが育成できていない。27町会が未養成。
自主防災訓練の充実	全町会で防災訓練を実施 6町会で訓練内容を改善	若年層の参加が少ない。

# 課題への対応

災害情報の 共有・発信	すべての町会がメール登録するよう働きかける。
要支援者の 把握強化	情報提供の同意が得られていない方は、制度を理解していない可能性があるため、更なる周知を行う。
地域ボランティア 除雪隊の育成	訓練等で体制を確認する。
地域防災リー ダーの育成	リーダー不在の町会に積極的に参加を促す。
自主防災訓練の 充実	学校への参加協力を行うとともに、避難計画図の作成支援を呼びかける。



ご清聴ありがとうございました



A SAFE COMMUNITY

**国際認証都市**  
**セーフコミュニティちちぶ**

